

令和7年度 学校経営報告書

八王子市立美山小学校

校長 加藤 毅

I 今年度の取組と自己評価

評価基準：【A】 十分達成できた 【B】 概ね達成できた 【C】 あまり達成できなかった 【D】 達成できなかった

	今年度の取組	自己評価	
1 学力の向上 (今年度の重点目標)	・「主体的・対話的で深い学び」の実現について	・校内研究では、今年度から国語科で「読み解く力」を育てることについて研究をした。2つの学年で研究授業を実施した。研究を通して、説明文の内容を要約したり、表にまとめたりできるようになるために、どのような手立てが有効かを検討したり、実践したりした。また、学習発表会で、学習用端末を活用した発表の機会をつくり、3年生以上の児童一人ひとりが全校児童や保護者、地域の皆さんの前で調べたことを発表することができた。	B
	・「短い時間を活用した教科等指導」と美山チャレンジタイムの活用について	・昨年度から取り入れた「短い時間を活用した教科指導」については、設定した時間が適切に活用されているか管理職が確認した。教員の意識も高まっており、授業時間として適切に活用することができた。美山チャレンジタイムと合わせて、基礎学力を定着する機会となっている。今後も児童の実態に合わせて、学習内容の選定や学習方法の工夫を重ねる必要がある。	B
	・教科横断的な学習活動の設定について	・毎学期行う授業観察では、各教員がその授業を通して育てたい教科横断的な資質・能力を指導案に明記して授業を実施した。普段の授業の様々な場面で、教科横断的な資質・能力を意識することが大切であることが浸透し、教員の意識が高まってきたことを感じる。今後も教員一人ひとりが、児童にどんな力を身に付けるのかを明確にして、授業に取り組んでいく。	B
	・二学年合同の授業について	・学習指導要領で二学年が共通の目標である教科について、合同の授業を行った。体育や特別の教科道徳など、学習活動に取り組む児童数が増えることで、活動内容が多彩になり、協働的な学びも可能になるなどの効果が見られた。一方、図工や家庭科など発達や習熟の違いから技能面の差異が生じる教科については、指導や活動の仕方に工夫が必要になった。どの学年も担任以外に指導をする教員が増えたことにより、多面的・多角的な児童理解を図ることができた。	B

2 豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> いじめの未然防止及び早期発見や対応について 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週火曜日の5校時終了後に学校いじめ対策委員会を行い、いじめに関する情報はもちろんのこと、各学年の児童の様子について情報共有を行った。また、休み時間には校庭や教室、特別教室など、児童の居場所となるところに教員が行き、児童の見守りを行った。これからも、全教員で全校児童を見守っていくことで、いじめの未然防止や早期解決につなげていく。 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 多様な意見をもつ他者と議論し、考えを深める道徳の授業について 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教材について、中心人物を自分に置き換え、課題について考えたり、友達と考えを比べたりする活動に取り組ませた。二学年合同で授業を行うことにより、より多くの意見に触れられるよう工夫した。道徳授業地区公開講座では、保護者や地域の皆様にその様子をご覧になっていただくとともに、今年度着任したスクールカウンセラーの講話も聴いていただき、児童の育成について一緒に考える機会を設けることができた。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> たてわり活動や行事などを通して人間関係形成力を高めることについて 	<ul style="list-style-type: none"> 全校遠足やわくわく班において、6年生を中心に充実したたてわり班活動を実施することができた。今年度は6年生の児童数が例年より多く、リーダーになる児童とそれをフォローする児童の分担を行い、特性に応じた活動が見られた。6年生同士で協力し、どの行事や活動も適切に行い、成果を上げることができた。 	A
3 健康・安全に関する意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 児童の体力の向上について 	<ul style="list-style-type: none"> 持久走旬間やなわとび月間では全校児童が休み時間に一斉に体力向上に取り組んだ。また、体力測定のリランは春と秋の2回実施し、児童の体力面の成長を確認した。休み時間に外遊びをする児童が少ないことが教職員の反省として挙げられた。 	C
	<ul style="list-style-type: none"> 生活のきまり「美山のやくそく」を元にした生活指導について 	<ul style="list-style-type: none"> 各学級において基本的な生活習慣を身に付けるべく、丁寧な指導を繰り返した。児童一人ひとりが生活面での成長を遂げている。また、休み時間に、校庭や教室、特別教室で、担任や専科教員が見守りを行った。それにより、教職員全員で児童へ安全指導に取り組むことができた。いじめの未然防止にもつながっていると考えられる。休み時間の過ごし方については、児童の体力向上とも絡めて、次年度の課題として検討していく。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自ら安全な行動を取れる力の育成について 	<ul style="list-style-type: none"> セーフティ教室や自転車教室など、児童の安全に関する教育活動を適切に行うことができた。また、代表委員会の児童が廊下での安全な歩行を呼び掛けるなど、自主的に安全な生活を心掛けることができた。 	B

4 特色ある教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育について 	<ul style="list-style-type: none"> ・知・徳・体にわたる育てたい児童・生徒像を各校で共有し、年間3回の小中一貫教育の日に合わせて情報交換を行った。中学校での授業体験では、6年生が中学校1年生の授業を参観し、中学校の英語の教員の授業を受けた。程よい緊張感の中での体験活動となり、児童が中学校生活を思い描くよい機会となった。今後も、中学校とのつながりを意識した教育活動を検討していく。 	C
	<ul style="list-style-type: none"> ・小小連携について 	<ul style="list-style-type: none"> ・上川口小学校との交流活動も4年が経過した。学年が上がるごとに交流の回数を重ねているため、互いの顔や名前を覚えており、人間関係の深まりを感じる。社会科見学の実地踏査など、両校の教員の協力体制も適切に構築できている。来年度に向けてスムーズな引継ぎを心掛けていく。 	A
5 開かれ信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育方針や教育活動の状況など、保護者や地域への情報発信について 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりやホームページを活用して、教育方針や活動の様子をできるだけ丁寧に発信するように努めた。特に、ホームページの更新については、学校用スマートフォンが配備されたため、それを活用して、社会科見学や移動教室など校外学習の様子をできる限りリアルタイムに紹介することができた。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した学校づくりについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を年間で8回開催し、委員の方々からご意見を伺った。特に学校行事や、学校農園の活用、演劇鑑賞教室、道徳授業地区公開講座などについて貴重なご意見をいただき、次年度に向けての改善に役立てた。また、「地域防災訓練」や「健康フェスティバル」にできるだけ多くの教職員が参加するように呼び掛け、地域との連携を深めることができた。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の服務について 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月、7月、12月に服務事故防止研修を実施した。事例研修では、日常の教育活動における自身の取組を振り返ったり、適切な対応についてグループ協議を行ったりすることで、服務の厳正について意識を高めた。また、毎月の職員会議では、その時期に起こりやすい服務事故について校長が講話を行った。 	B

II 次年度以降の課題と対応策

課 題	対 応 策
<p>「考える子」 主体的に、意欲をもって学ぶ子 (本年度重点目標)を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度や学習意欲など児童理解に努め、児童の実態に応じた学習課題を設定する。また、児童一人ひとりに対し、できる限り個別の指導を行い、基礎的・基本的な学力の向上をめざす。 ・基礎的・基本的な学力の根幹をなす、国語科における「読み解く力」を育てるために、校内研究において具体的な手立てを探究し、教員の授業力の向上を図る。 ・1年間を通して育てたい教科横断的な資質・能力を明確にし、継続的で計画的な資質・能力の育成をめざした教育活動の手立てを構築する。 ・生活科や総合的な学習の時間における栽培活動や農業体験などを充実させ、実際の体験から得た知識や考え方から課題を解決するような学習活動を展開する。
<p>「やさしい子」 自他の尊厳を認め、他者と共に より良く生きる子を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談できる大人との関係づくりのため、児童一人ひとりに寄り添ったかかわりを大切にす。そのために、全教員による読み聞かせや、全教員と全校児童による遊びの会を実施する。 ・クラブ・委員会活動や学校行事、たてわり班活動において、児童一人一人の役割を明確にし、活躍の場を設ける。その際、児童の実態に応じた活動を設定したり、負担を軽減するよう活動を精選したりすることで、児童一人ひとりの意欲を高め、達成感を味わえるようにし、自己有用感を育む
<p>「元気な子」 進んで体を鍛え、心身ともに健 康な子を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に体を動かす機会を増やす。天候に左右されない体育館を活用したり、教員と一緒に遊ぶ機会を設定したりする。また、持久走旬間や縄跳び月間などの取組を継続し、日常的に体を動かす活動を充実させる。 ・生活のきまり「美山小のやくそく」を元に全学年共通の指導を行う。その際、児童の意欲を高める指導を工夫し、基本的な生活習慣を身に付けるとともに、児童が自律的に行動できる力を高める。
<p>保護者・地域と連携した教育を 推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と連携しながら児童一人一人の実態を把握し、児童の学習及び生活への意欲が高まるよう対応するとともに、児童にとって居心地の良い学校となるよう環境整備に努める。 ・養蚕や劇団「風の子」など地域の人材等を活用して授業や行事を充実させるとともに、学区域外に居住する児童へも「地域防災訓練」や「健康フェスティバル」など地域行事への積極的な参加を促し、保護者や地域と連携して社会に適應する能力や態度を育成する。 ・上川口小学校と合同で実施する校外学習やレクリエーションを充実させ、児童のコミュニケーション力を高めるとともに、円滑に中学校へ進学できるよう配慮する。